

第 1 1 回 富山地区学校再編検討委員会次第

日時 平成 2 2 年 6 月 2 9 日 午後 7 時

場所 富山公民館 講義室

1. 開会
2. 検討委員長あいさつ
3. 教育長あいさつ
4. 委嘱状交付
5. 委員紹介
6. 報告
 - (1) 平成 2 1 年度検討委員会検討・推進状況について (資料 1)
 - (2) 岩井小学校耐力度調査結果について (資料 2)
7. 議事
 - (1) 今後の推進方法について
 - ① 平群小学校・幼稚園の存続を求める要望について (資料 3)
 - ② 再編方針案と今後の推進スケジュールについて (資料 4)
 - (2) 第 1 2 回検討委員会の日程について (資料 5)
 - (3) その他
8. 閉会

第11回 富山地区学校再編検討委員会 会議録

平成22年6月29日（火）午後7時

富山公民館 2階講義室

記録者 川名 裕子、黒川 利也

出席委員 18名

欠席委員 戸倉委員

1 開会

2 検討委員長あいさつ

委員長 新メンバーを迎えて11回目になる再編会議である。子ども達を中心に考える再編会議にしたい。

平群地区からの平群小学校を残したいとの要望が出ている。再度委員の方々にご意見を伺いたい。

耐力度調査が完了したので、後ほど事務局より岩井小学校の耐力度調査結果の報告を受けたい。

3 教育長あいさつ

教育長 富山の子ども達の今後を考えた計画としていきたいので、慎重な審議をお願いする。

4 委嘱状交付

5 委員紹介

6 報告

(1) 平成21年度検討委員会検討・推進状況について

事務局 資料に基づき説明。

(2) 岩井小学校耐力度調査結果について

事務局 昭和37年度と昭和39年度に建設した校舎棟は、耐力度がそれぞれ3802点と3464点で、改築補助対象に該当する程度の老朽化度合いであった。昭和55年度建設の幼稚園・特別教室棟の耐力度は、5460点であった。

市として、今後は校舎の改築を進めていく。

委員 改築の補助金はもらえるのか。

事務局 補助金の対象となっているので問題ない考える。

委員 国から確実に補助金は出るのか。

事務局 制度として確立しており、調査結果を報告すれば対象となると考えているので、問題ない考える。

委員 全額でない場合は市が補助していくのか。

事務局 補助対象以外は、そのようになるだろう。細部については十分な検討を今後していく。

教育長 子どもの安全を考えると、老朽化の進んだ校舎にこのままずっと子どもを入れておけない。建て替える方向で考えている。再編の協議をしていくなかで、具体的な検討を行って行きたい。

事務局 補助金や交付金の内容は、学校をどのように建替えるかによって違う。建設計画を文科省に出し、それに応じて予算化されていく。全額補助は無理なので不足分は市として、検討していかなければならない。

委員 どのように建設する財源を確保していくのか。

事務局 二種類の方法があると考えている。

1つは、何年か後を考え、基金をつくり財源を確保する方法。2つ目は、有利な起債（交付税等で起債の一部が補填される）を活用する方法がある。現実的には、それらの組み合わせになると思われる。

委員 I S値や耐力度の数値結果からの判断として、すでに危険な状態なのか。

事務局 危険だとは考えていない。I S値と耐力度は違う判断基準となる。I S値は耐震の目安で0.7以上は倒壊する可能性が低いというものであり、耐力度は改築にかかわる国の補助対象（4500点以下）を判断する数値である。岩井小学校は、耐震性は確保されていると判断している。

委員 現在の数値から判断すれば安全なのか。

事務局 数値の基準はクリアーしているので、安全であると判断している。

以上で、報告を終わります。

事務局 議事に入ります。

設置要綱の定めにより、委員長に議長をお願いする。

傍聴の申し出がありましたので、議長、許可してよろしいか。

委員長 許可する。

(傍聴人11人入室)

委員長 これより、議事を行います。

本日の出席委員数は18名ですので、会議は成立する。

第1号議案「今後の推進方法について」①平群小学校・幼稚園の存続を求める要望書についてを議題とする。事務局より説明を求める。

事務局 資料をご覧いただきたい。「はじめに」と「平群は今」等の地域意見が出されています。このことについて、委員の方々からのご意見をいただきたい。

委員 どんな観点より意見を出せばいいのか。

事務局 統合についてはいろいろな考えがあるが、子どものことを考えると統合して集団の学習ができるように改善するため、統合を推進していくことを前回会議では確認されたが、新たに委員となった方々からの意見をうかがわせてほしい。地域の思いを十分に配慮し、その上でのいろいろな課題を、この会で検討していただきたい。子どもの学習環境を考えながら課題を考えていただきたい。

オブザーバー 地域の方の意見を反映させるとすると、もっと教育委員会の考えや方針、今後のスケジュール等を示すべきではないか。

事務局 現在の再編に対して、もう一度原点に戻り、子どもの今後を中心に意見を出してほしいと考えている。

市の判断だけではなく、地域の考えや意見も踏まえて決定していくことが必要と考える。

委員 これまでの話し合いで、保護者の考えは、統合は仕方ないのではと受け止めている。今後、学校改築をどこに設置していくか、余分なお金はかけられないとの考えから小規模の改修でいくことを考えると、岩井小を土台とするという方向ではなかったか。これまでの話し合いを整理し、次への話し合いのステップを明確にしてほしい。

オブザーバー 子どもたちに集団の学習ができる環境で学ばせたい。そのために、岩井小学校を統合小学校、幼稚園としたときに、どの程度の修繕を予定し費用はいくらかかるのか。

事務局 具体的な修繕項目はこれから確認していくので、費用は現段階で示すことはできない。必要最小限の改修経費と考える。

オブザーバー 岩井小の耐力度調査をなぜやったのか。

事務局 検討委員会の方針案として、岩井小学校校舎を統合小学校として活用することとされた。統合後の小学校として子どもたちが学んでいく上で、建設後45年を経過していることから、検討委員会からの意見もあり、市として耐力度調査を実施した。

委員 議題の方向が少しずつれてきた。〈はじめに〉〈平群は今〉に対しては同感であるが、就学している子どもを持つ保護者としては、岩井小との統合は仕方ないと考えている。こ

れから先、10年、20年後を考えると統合は必要と考える。

ただ、統合に関して、何か地域への還元を考えてほしい。

これまでの話し合いでは、新校舎という考えはなかったので切り離して考えたらどうか。市としての新校舎設立の考えがあるとするならば考え直していく必要が出てくるのか。どのような方法がいいのかは考えていかなければいけないが、統合していく方向で考えていきたい。話し合いの方向性を明確にしてほしい。

副委員長 どこに校舎を建てようが富山小学校となる。子どもが少ないから、一緒に学ばせたいという方針が検討委員会の考え方だと思う。

事務局 少人数のよさとされることと、統合によるマイナス面など、両面あると思うが、検討委員会としては集団学習ができるように統合を進める。

委員 確認ですが、今回の話し合いはこれまでの経過に関する確認が中心ですか。

オブザーバー 新校舎設立と統合は別に考えていった方がよいと思う。

事務局 子どもの学習環境を改善していくことが一番の趣旨と考えている。

委員 これまでの話し合いが覆されるのか。

事務局 検討委員会方針の骨子はぶれないと思っているので、前回の10回目の検討委員会で協議されたことを踏まえ、統合に向けて進めていく。

校舎改築については、教育環境の充実を目指して整備していく。

新委員もいるので再編方針案の確認をするものです。

オブザーバー それは難しい。学校再編の中で、改築を視野に入れて考えていく。再編は統合させることが目的だろう。改築まで考えると大変である。この検討委員会は統合の推進を考えていった方がよいのではないかと。

事務局 この委員会は建築委員会ではない。

子どもたちの学習環境をどうしていくかを考えていく委員会である。再編に向けた方針案を基本に、今後のスケジュールを考えてもらいたい。

委員長 次に、議題第2号、再編方針案と今後の推進スケジュールについて、を議題とします。事務局説明願います。

事務局 資料4をご覧ください。平成23年4月1日を目標期日としていたが、事務的な手続き等考えると平成23年4月1日は無理な状況にある。一年間の延期とすることも視野に入れておく必要があると考えます。

次回の会議に引き続き協議していくことも踏まえて目標期日の方針案の検討をしていただきたい。

委員長 事務局の提案について、意見や質問はあるか。

事務局 平群地域の方との理解を深めながら協議を進めていった方がよいと考える。あくまでも再編については地域の方の理解を得ながらと考える。そのためには時間が必要と考えている。

委員 今後も地域への説明会等をした後に、統合に向けての個別の協議になっていくことでよいか。

事務局 スクールバス等具体的な意見があると思うが、その点については今後、個別の専門部会を作って対応していきたいと考えます。

ワザバー 今後は校舎改築と再編と二つの会で進めていくのか。国への申請について、統合を考えての上か、岩井小単独でも申請していくのか、その点についての考え方を、市はもっているのか。

事務局 統合を目的とした校舎建築となってしまうことには、大きな懸念をもっている。今の時点では、統合するには、新しい校舎を建てた後とするのか。統合はできる限り先にするのか。今後の検討委員会に資料を提供して検討していきたい。

検討委員会としては、現状の子どもたちの学習環境を少しでも速く改善してやり、集団の学習のできように統合を進める方向であることから、今後は地域の方への理解を得られるように進めていきたいと考える。

委員長 統合の時期については、次回、会議で引き続き検討していきたい。

委員 統合等についてすぐに理解が得られるとは考えられないので、一年先に延ばしてもらった方がよいと思う。

事務局 保護者・地域への説明会について、多くの子どもと一緒に学ぶこと、学校安全面からの不安を取り除いていく点を考えていきたい。再編と校舎改修の両面の話し合いは今後も出てくることを理解してもらいたい。

委員長 期日に関しては、次の会議に持ち越す。

委員 次回会議は、統合に関しての内容から話し合うのか。

委員長 検討委員会として、少しでも早い再編を進めていきたい。基本方針である目標期日の再検討を協議しながら日程について考えていきたい。

委員 校舎新築をあまり前面に出してほしくない。

委員長 検討委員会としては、子供たちの学習環境を第一に考えて検討していきたい。それでは、事務局より今後の日程について提案をお願いする。

事務局 資料をもとに、提案。次回会議は7月27日を予定。

委員 平群小学校舎の耐震調査・補修はどうなっているのか。

事務局 平群小校舎については、旧富山町に耐震診断調査を実施した結果、校舎の耐震度は文

部科学省基準を上回っており、担保されている。

終了